

## 第3章 伊万里市の現況把握

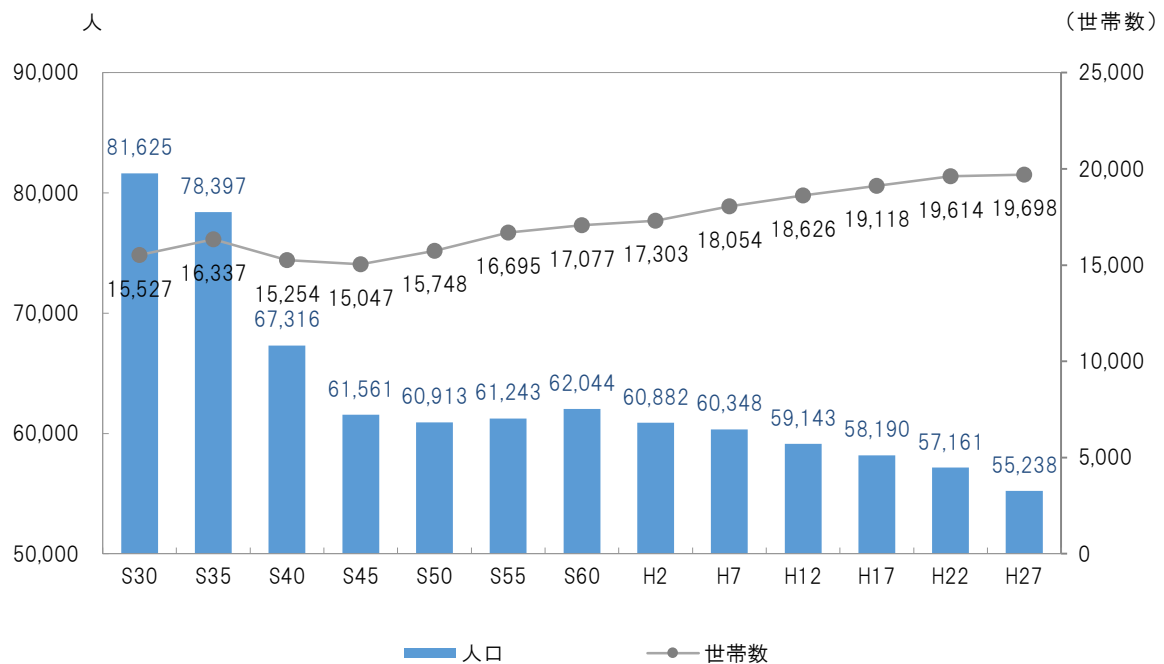
### 3-1 伊万里市の現況

#### 1. 人口動向

##### (1) 人口・世帯数の推移

- 人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯（H27 国勢調査）
- 昭和 30 年以降、減少傾向が続く

平成 27 年国勢調査では、人口 55,238 人、世帯数 19,698 世帯となっています。経年変化をみると、昭和 30 年に 81,625 人でしたが、国のエネルギー転換に伴う相次ぐ炭鉱の閉山により、昭和 45 年には 61,561 人まで急激に減少しました。その後は多少の増減の後、緩やかな減少傾向となっています。一方、世帯数は核家族化の影響により昭和 45 年以降、増加傾向にあります。



資料：国勢調査

図 人口・世帯数の推移

## (2) 地区別人口

- 市全域では人口減だが、用途地域内は増加傾向（H17⇒H27で970人増）
- 用途地域内のうち、伊万里駅周辺は減少、用途地域縁辺部は増加

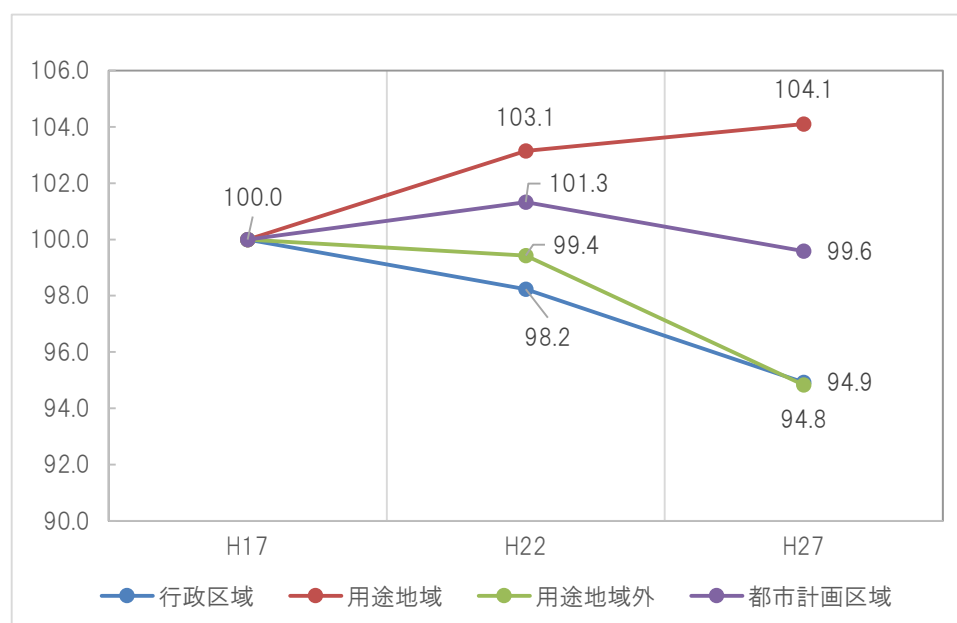
平成 17 年から平成 27 年までの用途地域内外の人口の推移をみると、用途地域内では 970 人の増加となっている一方、用途地域外では 1,162 人の減少となっています。

用途地域内について詳しくみると（次項以降の図面参照）、用途地域の中心である伊万里駅周辺の地区は仲町を除いて減少しており、中心部から離れている地区（つつじヶ丘、二里町八谷搦、立花台三丁目等）において人口増加がみられるなど、中心市街地の空洞化が顕著となっています。

表 用途地域指定区域内外の地区別人口の推移 (単位:人)

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	H17-22
行政区域	58,190	57,161	55,238	-2,952
都市計画区域	46,094	46,706	45,902	-192
用途地域	23,615	24,357	24,585	970
用途地域外	22,479	22,349	21,317	-1,162
都市計画区域外	12,096	10,455	9,336	-2,760

資料:伊万里市都市政策課



資料:伊万里市都市政策課

図 区分別人口変化 (H17=100 とした場合)

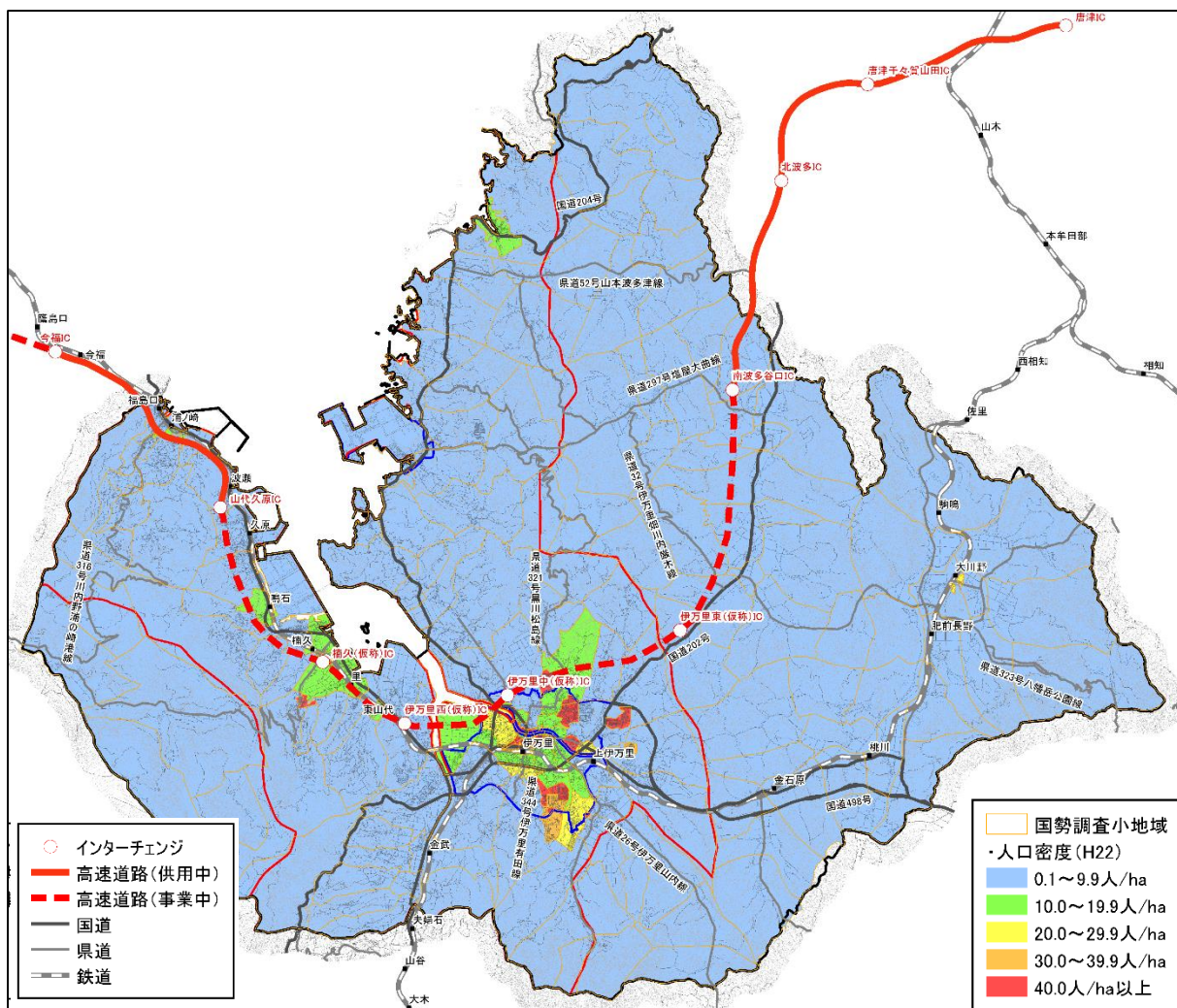


図 地区別人口密度 (資料:平成 22 年国勢調査)

※平成 29 年 3 月において、平成 27 年国勢調査の小地域別集計結果(GIS)未公表

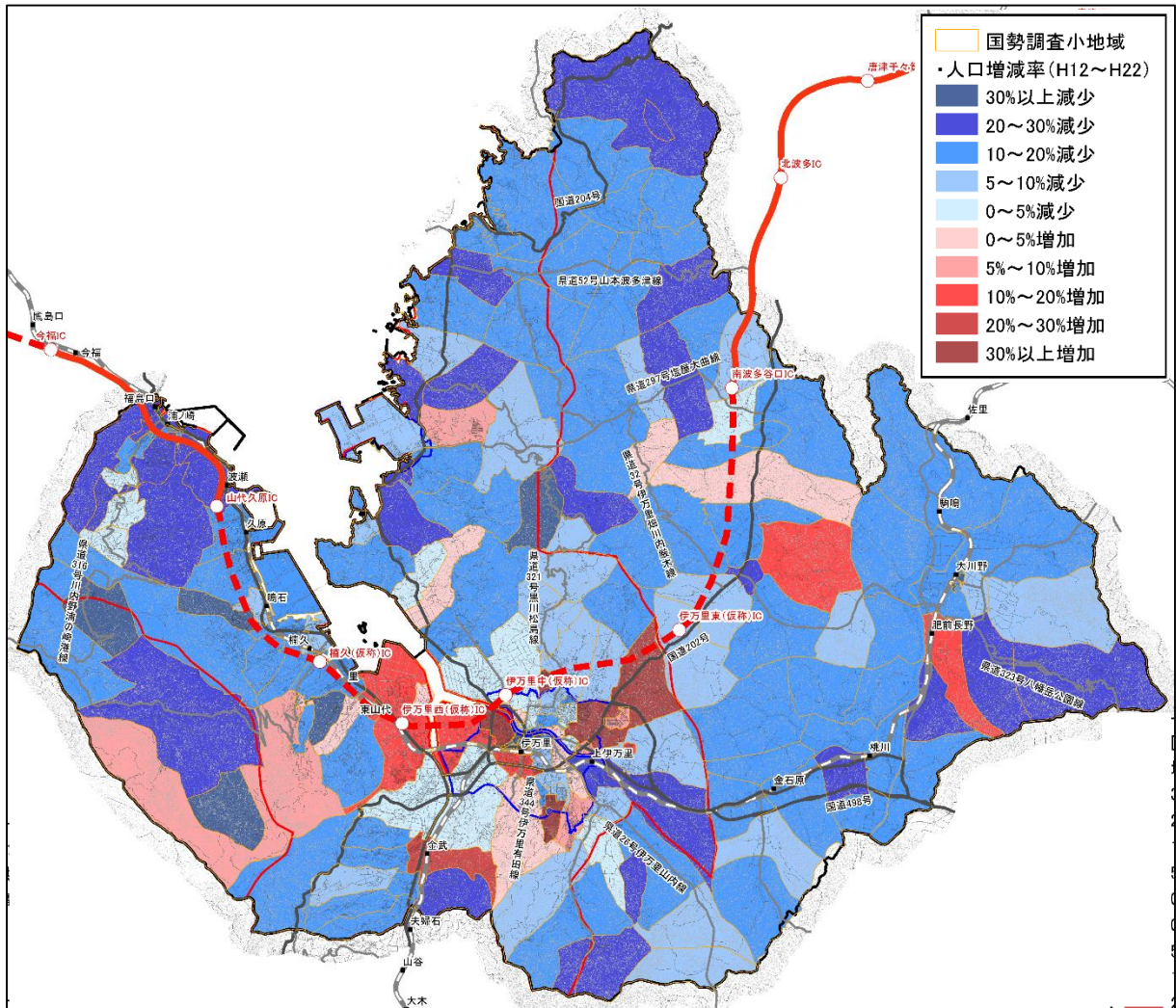


図 地区別人口の推移 (資料:平成 12～22 年国勢調査)

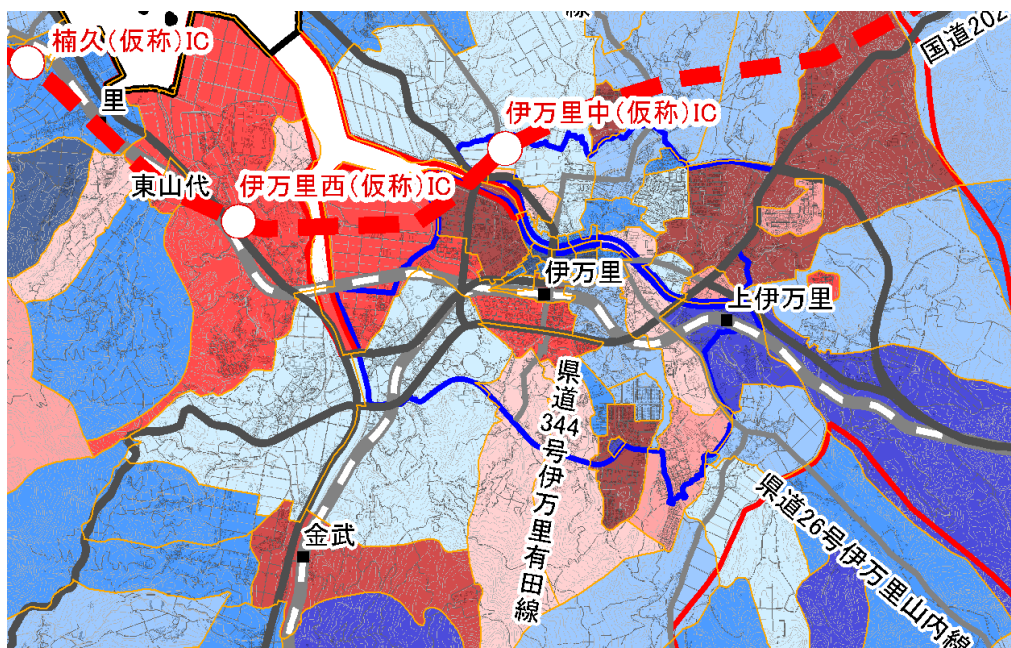


図 地区別人口の推移 中心部 (資料:平成 12～22 年国勢調査)

(3) 年齢別人口の推移

- 年少人口、生産年齢人口、老年人口割合が、14.8%、56.6%、28.6%、少子化、高齢化が進行（H27 国勢調査）
- 生産年齢人口は、H17（35,184人）からH27（31,230人）で約**4,000人減**

本市の年齢3区分別人口をみると、平成27年現在で、年少人口（0～14歳）14.8%、生産年齢人口（15～64歳）56.6%、老年人口（65歳以上）28.6%と、3人に約1人は65歳以上の高齢者となっています。

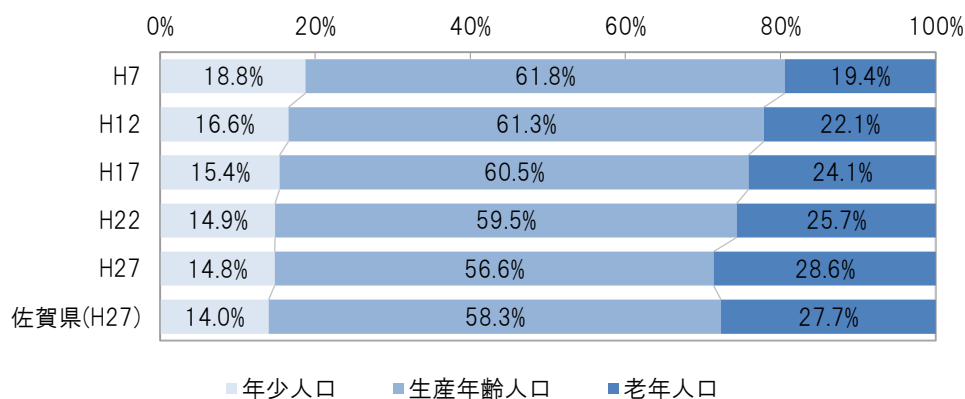
経年変化をみると、老年人口の増加、年少人口の減少が顕著に現れ、少子高齢化が急速に進行しています。

表 年齢別人口の推移

(単位:人)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	佐賀県 平成27年
15歳未満	11,324	9,794	8,971	8,484	8,151	116,122
15～64歳	37,298	36,254	35,184	33,988	31,230	483,019
65歳以上	11,726	13,095	14,035	14,659	15,782	229,335
計	60,348	59,143	58,190	57,131	55,163	828,476

資料: 国勢調査



資料: 国勢調査

図 年齢別人口の推移

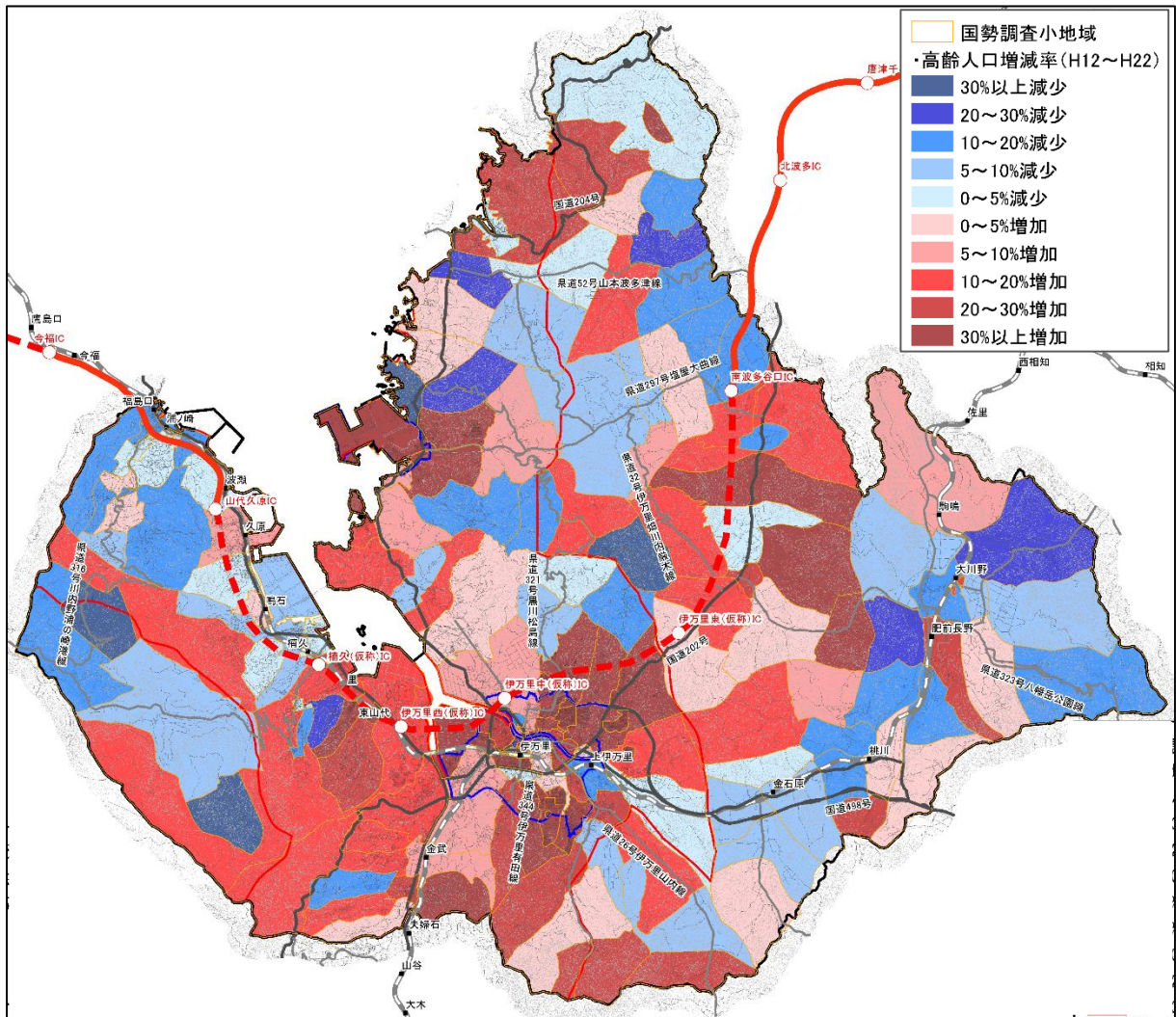


図 地区別高齢人口の推移（資料：平成 12～22 年国勢調査）

※平成 29 年 3 月において、平成 27 年国勢調査の小地域別集計結果(GIS)未公表

(4) 流出・流入人口

- 流入過多であり、周辺からの通勤・通学地となっている。
- 有田町、武雄市、唐津市との結びつきが強い。

平成22年国勢調査では、流出人口5,877人、流入人口8,843人と流入過多となっており、有田町、武雄市、唐津市との結びつきが強い状況です。

表: 流出・流入人口 (単位: 人, %)

	常住地による 就業・通 学者数	流出		従業地・通 学地による 就業・通学 者数	流入		就業・通学 者比率 (従/常)
		就業・ 通学者数	流出率		就業・ 通学者数	流入率	
平成12年	33,100	4,997	15.1	35,106	7,003	19.9	106.1
平成17年	32,281	5,467	16.9	34,576	7,762	22.4	107.1
平成22年	30,705	5,877	19.1	34,064	8,843	26.0	110.9

表: 流出状況

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
平成12年	有田町	823	唐津市	724	武雄市	549	西有田町	523	佐世保市	376
平成17年	唐津市	1,077	有田町	812	武雄市	619	西有田町	535	佐世保市	478
平成22年	有田町	1,275	唐津市	1,134	武雄市	910	佐世保市	484	松浦市	413

表: 流入状況

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
平成12年	西有田町	1,079	武雄市	780	有田町	667	唐津市	583	山内町	546
平成17年	唐津市	1,308	西有田町	1,158	武雄市	823	有田町	733	佐世保市	632
平成22年	有田町	1,878	武雄市	1,723	唐津市	1,573	松浦市	1,099	佐世保市	810

出典: 国勢調査

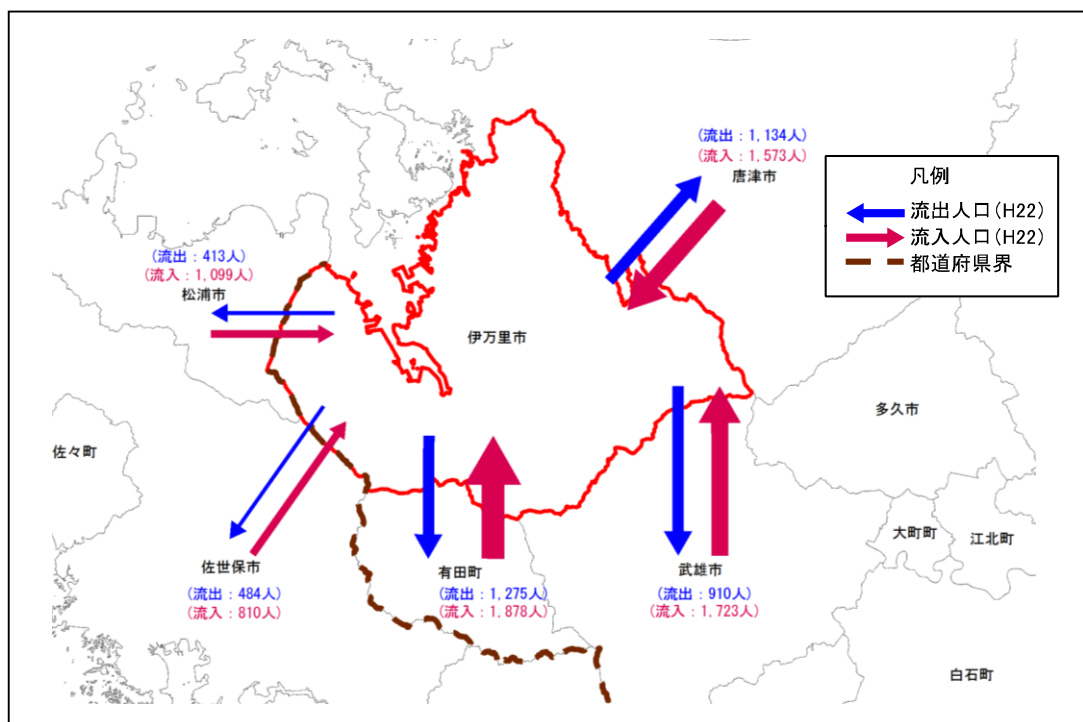


図 流出・流入人口(平成22年)

資料: 国勢調査

※従業地・通学地による人口・就業状態等集計の平成27年国勢調査データは、平成29年6月公表予定

## (5) 高校生アンケート調査結果

- 市内高校生の「市外への就職予定者」及び「進学予定者」の将来のUターン就職意向は、それぞれ1割、2割程度にとどまっている。

平成 27 年 3 月に伊万里・有田地区の高校 3 年生を対象に実施した「高校新卒者（平成 26 年度）の進路に関するアンケート調査」のうち、本市在住者の結果によると、就職予定者の 4 割以上が本市への就職を希望しており、実際に市内へ就職しています。

一方、一度県外へ就職した場合（県外への就職予定者）に、その後本市へ戻って就職したいと思うか尋ねたところ、「思う」と答えた割合は、わずか 1 割程度となっています。

また、進学希望者については、大学等を卒業した後に本市で就職したいと思うか尋ねたところ、「思う」と答えた割合は 2 割程度にとどまっています。

このように、就職や進学で一旦本市から転出した場合に本市へ戻ってくる意識は低いという結果が出ています。

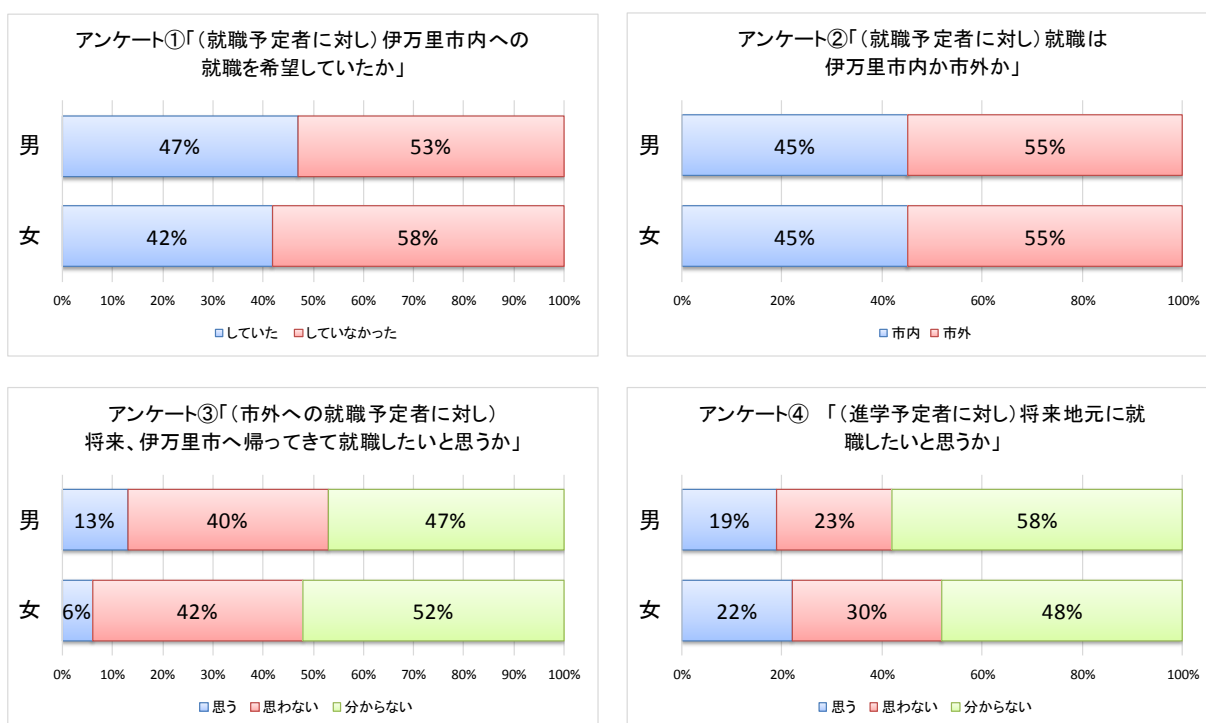


図 高校新卒者(平成 26 年度)の進路に関するアンケート調査結果

資料: 高校新卒者(平成 26 年度)の進路に関するアンケート調査(H27.3 伊万里市企業誘致・商工振興課)



## 2. 産業動向

## (1) 産業別就業人口の推移

- 就業者数は27,920人（H27国勢調査）、平成12年より減少傾向
- 第二次産業の割合が県と比較して高い傾向にある

本市の産業構造をみると、平成27年の就業者数は27,920人であり、産業別就業人口では第1次産業が2,582人、第2次産業が8,891人、第3次産業が16,304人となっています。

経年変化をみると、第3次産業は増加傾向にあり、第1次、2次産業が減少傾向となっています。

また、佐賀県と比較すると、第2次産業が8ポイント高い状況にあります。

表 産業別就業人口の推移

(単位:人)

	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	佐賀県 平成27年
第1次産業	3,921	3,703	2,793	2,582	34,634
第2次産業	9,969	9,401	8,959	8,891	96,255
第3次産業	16,186	16,550	15,979	16,304	266,782
分類不能	15	47	671	143	12,566
総数	30,091	29,701	28,402	27,920	410,237

資料:国勢調査

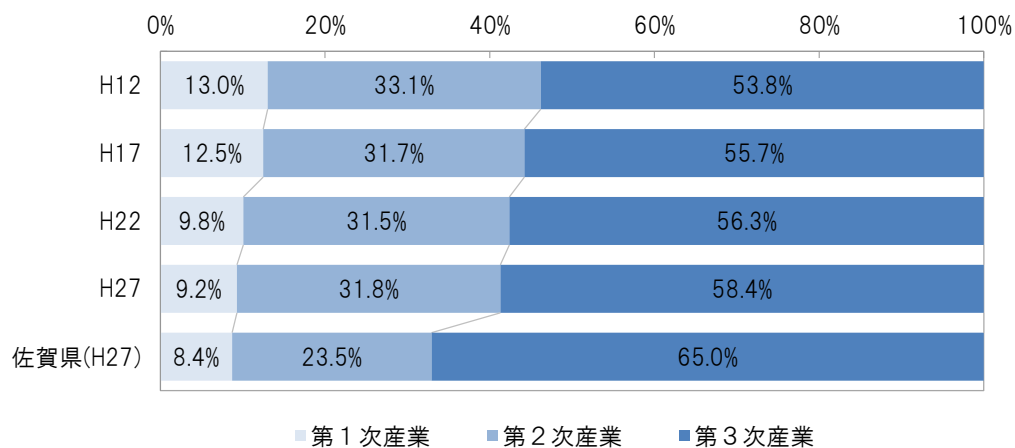


図 産業別就業人口の推移

資料:国勢調査

## (2) 産業大分類別人口

- 製造業、建設業、卸売・小売業、医療・福祉従事者が多く、特に製造業、医療・福祉は全国比較でも就業割合が高い

男女別産業大分類別人口をみると、市内就業者のうち男性は「製造業」が最も多く、「建設業」「卸売、小売業」と続いており、女性については「医療、福祉」が最も多く、「卸売、小売業」「製造業」と続いています。

本市において、ある産業に就業している構成割合を全国の同じ産業に就業している構成割合で除した特化係数※によれば、就業者数が多い男性の「製造業」、女性の「医療、福祉」は係数 1.0 を超え、全国と比較した場合に就業割合が大きいことがわかります。

また、就業者数は少数であるが、「漁業」も特化係数が 1.0 を大きく超え、全国と比較し就業割合が大きくなっています。

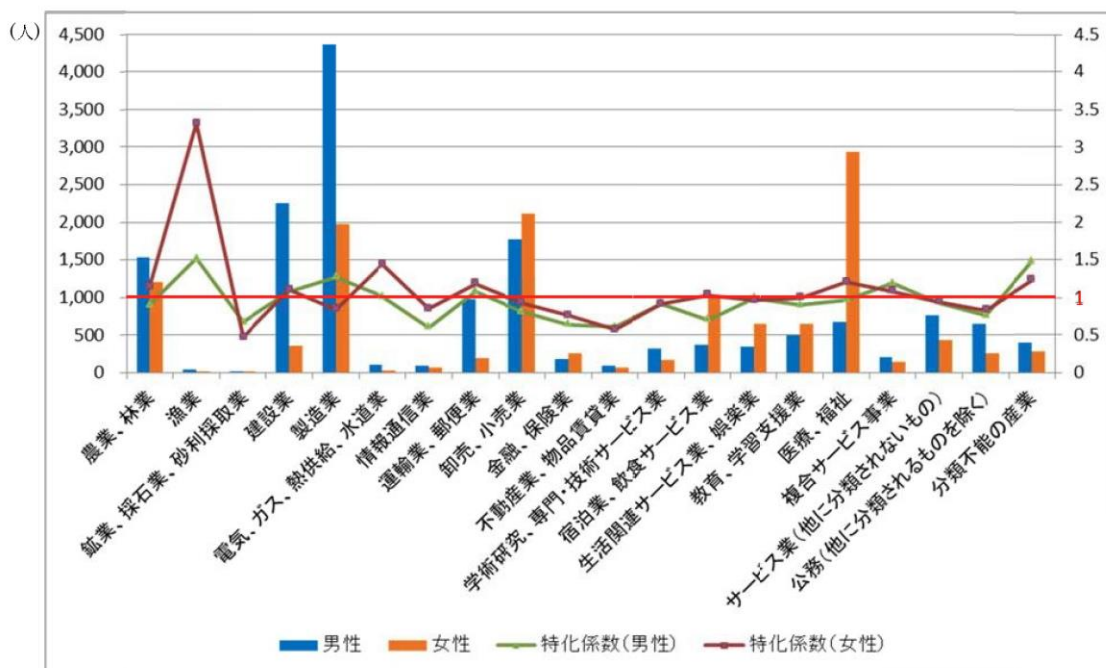


図 男女別産業大分類別人口

資料:伊万里市人口ビジョン

※ X産業の特化係数=当該地方公共団体のX産業の就業者比率/全国のX産業の就業者比率

## (3) 農業・工業・商業の状況

- 伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドが確立している  
一方、農家戸数、農業従事者数は減少、耕作放棄地は増加
- 製造品出荷額は、平成19年をピークに減少傾向
- 商品販売額は、平成6年をピークに減少傾向

## ① 農業

伊万里牛、伊万里梨については、伊万里ブランドとして全国的に高い評価を受けています。平成27年時点で、農家数2,628戸、農業従事者人口2,940人、耕作放棄地面積663haとなっており、全国的に農家戸数が減少する中、農業従事者の高齢化と後継者不足が進むとともに、耕作放棄地も増加している状況にあります。

表 農家数、農業就業人口、耕作放棄地面積の推移

年次	H22	H27
農家数(戸)	2,933	2,628
農業就業人口(人)	3,751	2,940
耕作放棄地面積(ha)	578	663

資料: 農業センサス

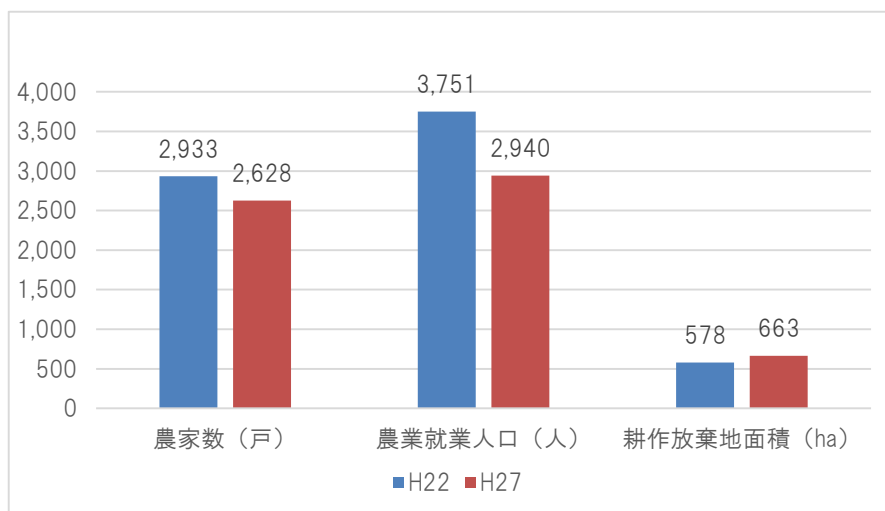


図 農家数、農業就業人口、耕作放棄地面積の推移

資料: 農業センサス

## ② 工業

平成 25 年時点で事業所数 139 所、従業者数 7,033 人、製造品出荷額約 2,587 億円となっており、製造品出荷額は平成 19 年以降減少傾向となっています。

表 事業所数、従業者数、製造費出荷額等の推移

年次	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
平成10年	289	6,939	16,461,946
平成11年	282	6,718	15,894,398
平成12年	268	6,318	16,440,879
平成13年*	169	6,322	16,695,056
平成14年*	160	6,040	17,240,507
平成15年	252	6,237	19,073,902
平成16年*	151	6,337	21,369,053
平成17年	238	6,455	24,560,811
平成18年*	145	7,287	29,798,136
平成19年*	144	8,019	40,401,772
平成20年	220	8,294	37,922,789
平成21年*	135	7,833	27,355,428
平成22年*	130	7,379	34,487,853
平成23年*	148	6,278	21,538,337
平成24年*	141	7,245	29,168,161
平成25年*	139	7,033	25,874,028

資料：統計伊万里

※従業者 4 人以上の事業所が調査対象

(注) 平成 20、21、22、24、25 年は工業統計調査。平成 23 年以降は経済センサス-活動調査

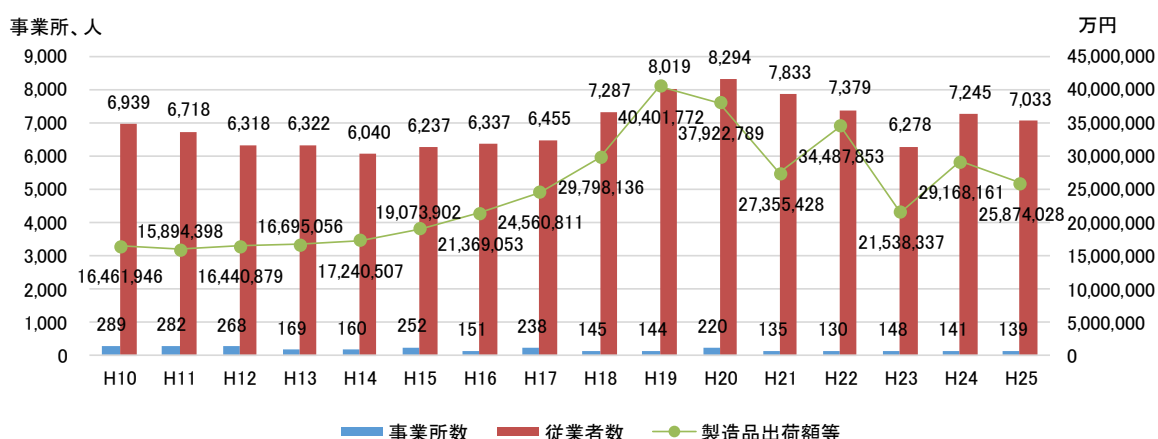


図 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

資料：工業統計調査、経済センサス

③ 商業

平成 26 年時点で商店数 566 店、従業員数 3,391 人、年間商品販売額約 880 億円となっており、年間商品販売額は平成 6 年以降減少傾向にありましたが近年増加に転じています。

表 商店数、従業員数、年間商品販売額の推移

年次	商店数	従業員数 (人)	年間商品販売額 (万円)
昭和 63 年	1,181	5,109	9,725,210
平成 3 年	1,145	5,179	11,307,717
平成 6 年	1,098	5,280	14,865,308
平成 9 年	1,086	5,031	13,983,657
平成 14 年	920	4,516	10,639,875
平成 16 年	848	4,585	10,397,888
平成 19 年	812	4,316	10,493,533
平成 24 年	572	3,371	7,871,400
平成 26 年	566	3,391	8,795,800

資料：統計伊万里、商業統計調査、経済センサス-活動調査

(注 1) 昭和 63 年、平成 3～19 年、26 年は商業統計調査、平成 24 年以降は経済センサス - 活動調査

(注 2) 平成 16 年は簡易調査

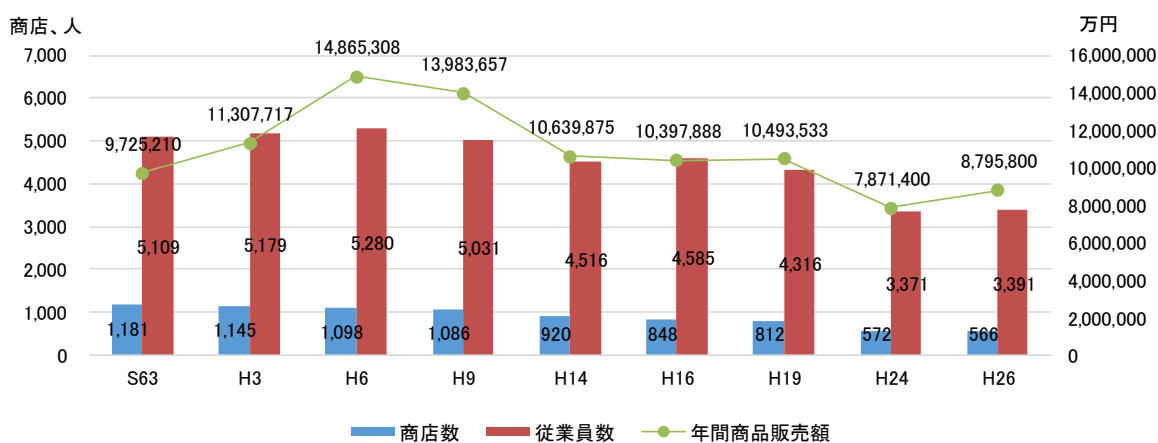


図 商店数・従業員数・年間商品販売額の推移

資料：商業統計調査、経済センサス

**(4) 伊万里港の輸出入の状況**

- 中国、韓国を中心に5航路開設
- コンテナ取扱貨物量は、九州内港湾で第5位（平成27年）、近年増加傾向
- セツ島工業団地以外には、残地がない

伊万里港は、国際海上コンテナ機能で日本海側拠点港に指定されており、外資定期コンテナ航路は中国、韓国を中心に5航路開設されています。特に、アジアのハブ港として大きく発展する釜山港とは、近年週1便から2便へ増便されています。

コンテナ取扱貨物量は、平成27年速報値では、九州内の港湾で第5位となっており、近年増加傾向にあります。

本市には産業集積地である工業団地等が11団地存在するものの、残地を有するのはセツ島工業団地の1.3haのみとなっている。

**① 外資定期コンテナ航路**

航路名	便数	備考
華南・韓国航路	週1便	輸入：香港及び華南地区より1週間で貨物到着 輸出：中国、東南アジアはもとより世界各国との輸出入が可能
大連・青島航路	週1便	中国東北三省の玄関口・大連及び青島を2日間で結ぶ
上海航路	週1便	中国の商都上海をわずか30時間で結ぶ
釜山航路	週2便	アジアのハブ港として大きく発展する釜山港と半日で結ぶ
国際フィーダー航路	週1便	神戸港を経由して、世界中との輸送が可能

資料：佐賀県伊万里港振興会

## ② コンテナ取扱貨物量

表 港湾別コンテナ取扱貨物量(上位10港)

所在地	港湾別のコンテナ取扱貨物量(2015年速報値)						港湾別のコンテナ取扱貨物量(2014年確定値)					
	2015 ランキ ング	コンテナ 取扱貨物量 (個)	外貨コンテナ		国内コン テナ (個)		2014 ランキ ング	コンテナ 取扱貨物量 (個)	外貨コンテナ		国内コン テナ (個)	
			出(個)	入(個)	出(個)	入(個)			出(個)	入(個)		
福岡県博多	1	925,593	822,192	404,276	417,916	103,401	1	975,244	861,134	423,792	437,343	114,109
福岡県北九州	2	498,798	433,076	221,769	211,307	65,722	2	484,948	425,907	216,483	209,424	59,041
鹿児島県鹿児島	3	116,657	1,677	678	999	114,980	3	99,008	0	0	0	99,008
鹿児島県志布志	4	81,881	63,856	29,432	34,424	18,025	4	92,040	70,910	31,579	39,331	21,130
<b>佐賀県伊万里</b>	<b>5</b>	<b>50,218</b>	<b>50,099</b>	<b>25,284</b>	<b>24,815</b>	<b>119</b>	<b>5</b>	<b>53,790</b>	<b>51,713</b>	<b>24,845</b>	<b>26,868</b>	<b>2,077</b>
大分県大分	6	47,035	27,736	15,771	11,965	19,299	6	40,242	29,330	16,491	12,839	10,912
宮崎県細島	7	34,538	25,101	14,216	10,885	9,437	7	33,075	24,759	13,787	10,972	8,316
熊本県八代	8	18,151	17,723	8,944	8,779	428	9	18,046	18,046	9,046	9,000	0
鹿児島県川内	9	17,802	14,874	8,666	6,208	2,928	8	20,529	17,088	9,838	7,250	3,441
長崎県福江	10	17,586	0	0	0	17,586	12	13,155	0	0	0	13,155

資料:国土交通省

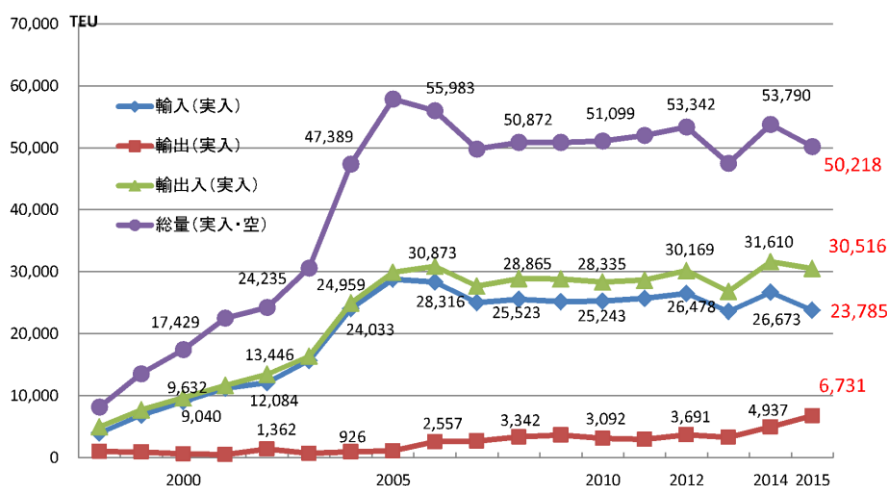


図 2015年伊万里港コンテナ貨物取扱量推移

## ③ 市内工業用地の状況

表 工業用地(平成27年12月31日現在)

団地名	完成年次	造成計画面積 m <sup>2</sup>	うち造成済面積 m <sup>2</sup>	工業用地面積 m <sup>2</sup>	分譲済面積 m <sup>2</sup>	残地面積 m <sup>2</sup>
七ツ島工業団地	昭和50年	1,882,000	1,482,000	1,281,000	1,268,000	13,000
長浜A団地	41年	82,621	82,621	82,621	82,621	-
長浜B団地	50年	18,680	18,680	18,680	18,680	-
長浜C団地	58年	206,814	206,814	199,926	199,926	-
伊万里窯業団地	40年	90,030	90,030	90,030	90,030	-
里工業団地	40年	76,885	76,885	76,885	76,885	-
久原工業団地	48年	320,520	320,520	299,000	299,000	-
南波多工業団地	60年	21,253	21,253	19,223	19,223	-
黒川工業団地	61年	30,542	30,542	30,542	30,542	-
大川工業団地	平成3年	72,776	72,776	72,776	72,776	-
伊万里団地	平成10年	1,133,000	1,133,000	947,000	947,000	-

資料:伊万里市企業誘致・商工振興課

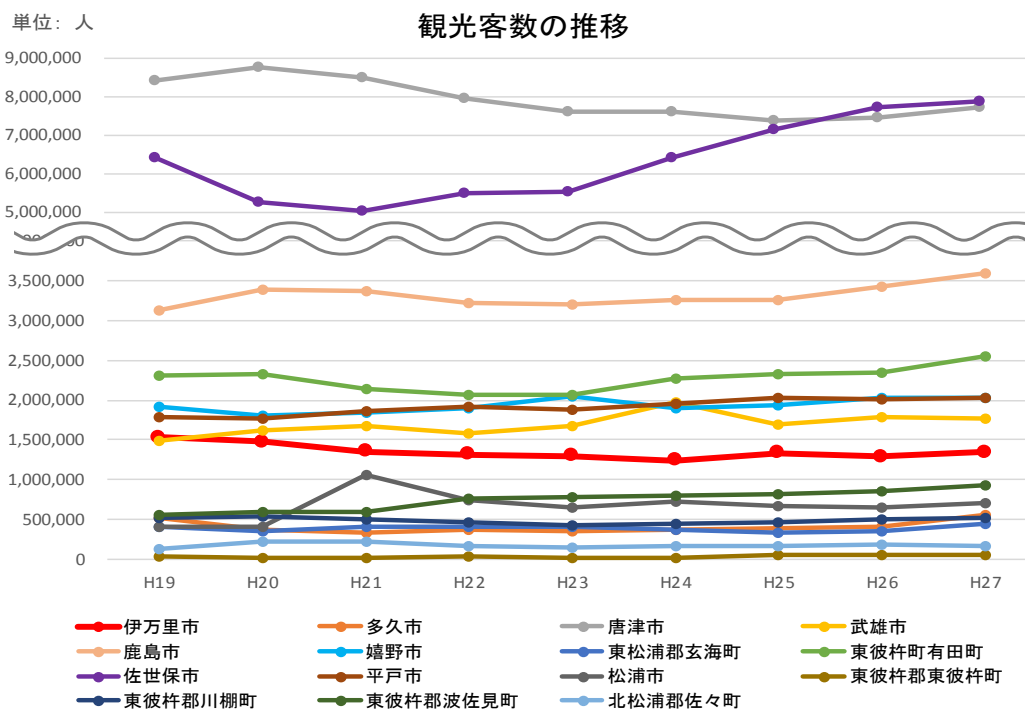
(5) 観光動向

- 観光客数は、年間 134.0 万人（H27）、近年微減傾向にあったが平成 25 年で増加に転換
- 市内観光要所における外国人観光客数は、約 2.9 万人（H27）と急増
- 平成 28 年度に、周辺の 6 市 2 町の構成で日本遺産「日本磁器のふるさと肥前」に認定

① 観光客数の推移

平成 27 年における本市の観光客数は、年間 134.0 万人となっており、近年は微減傾向にありましたが、平成 25 年で増加に転換しています。周辺の唐津市、佐世保市の観光客数は 700 万人を超えており、特に近年は佐世保市の観光客数の増加が著しい状況です。

また、近年は外国人観光客数が増加傾向にあり、平成 27 年には大川内山をはじめとする市内観光要所に約 2.9 万人が訪れています。



資料：統計年鑑、佐賀県観光客動態調査  
図 観光客数の推移

表 インバウンド客数の推移

(単位：人、%)

市内観光 要所名	平成24年			平成25年			平成26年			平成27年		
	統計値	前年比		統計値	前年比		統計値	前年比		統計値	前年比	
		増減数	増減率		増減数	増減率		増減数	増減率		増減数	増減率
大川内山	1,400	910	185.7	2,415	1,015	72.5	6,265	3,850	159.4	16,555	10,290	164.2
観光協会	402	39	10.7	586	184	45.8	992	406	69.3	1,635	643	64.8
3主要ホテル	4,076	3,273	407.6	2,459	△ 1,617	△ 39.7	2,741	282	11.5	10,666	7,925	289.1
合計	5,878	4,222	255.0	5,460	△ 418	△ 7.1	9,998	4,538	83.1	28,856	18,858	188.6

資料：伊万里市観光課



## ② 観光資源

本市の観光資源の代表例としては、伊万里焼、鍋島焼の窯元が集積する「秘窯の里 大川内山」が挙げられますが、その他にも、伊万里湾岸には国の天然記念物であるカブトガニ繁殖地やイマリンビーチ、いまり夢みさき公園、南波多地区には「フルーツの里 伊万里」を代表する伊万里梨やぶどうなどのフルーツ狩りができる観光農園など、海、山の豊かな自然環境の中に多くの観光資源を有しています。

平成 28 年度には、本市の他、唐津市、武雄市、嬉野市、有田町、長崎県佐世保市、平戸市、波佐見町の6市2町の圏域で日本遺産「日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」に認定されています。

表 本市内の観光資源（その1）

秘窯の里 大川内山 「佐賀県遺産」認定	大川内山は、江戸時代佐賀藩（鍋島家）の御用窯がおかれ、將軍家へ献上することを目的とした特別あつらえの焼き物「鍋島」が焼かれたところです。この献上品は、高い美的価値から世界の至宝と呼ばれています。現在の窯元は、藩窯で培われた高度な技法を受け継ぎながら新たな技術を取り入れるなど、300 有余年の歴史を誇る伊万里焼の中心となっています。 また、鍋島藩窯公園は、大川内山の歴史文化遺産の保護顕彰と、憩う施設を有機的に配置した焼物の里ならではの公園です。 大川内山には、鍋島藩窯として栄えた歴史と、土と炎の芸術「伊万里焼」の全てが息づいています。
玄海国定公園 竹の古場	春は、約一万本のツツジが園内を埋め尽くします。園内からは伊万里湾をはじめ、いろは島や玄界灘に浮かぶ壱岐・対馬を望むことができます。
イマリンビーチ	海洋性レクリエーション基地として、人工海浜のほか、緑地や遊歩道などが配置された風光明媚な海水浴場で、環境庁の「日本の海水浴場88選」に認定されています。
明星桜 佐賀県指定天然記念物	夜間、同樹の下で火を焚いて眺めると、花びらが火に映え、明星の趣があるところから、明星桜と名付けられたといわれています。
前田家住宅 「佐賀県遺産」認定 「国登録文化財」登録	前田家は江戸時代、代々大庄屋を務め、その住宅敷地面積は約3,100 m <sup>2</sup> あり、江戸時代後期に建てられた茅葺の主屋は、民家建築として佐賀県最大規模です。敷地内には東の蔵、西の蔵など多くの建物があり、建築学上でも高く評価されており国の有形文化財に登録され、佐賀県遺産にも認定されています。
いまり夢みさき公園	海や山などの自然にめぐまれた地域の特性を生かし、大型複合遊具や草スキー場など、無料で大人から子供まで一日中安心して過ごせる公園です。
伊万里湾 カブトガニ繁殖地	カブトガニは「生きた化石」と呼ばれ、絶滅危惧種に選定されています。多々良海岸周辺は日本有数の繁殖地であり国の天然記念物に指定されています。毎年7月末から8月上旬の大潮前後の満潮時に産卵を観ることができます。指定地そばのカブトガニの館では、成体観察や映像解説など、この貴重な生物を知ることができます。
伊万里津大橋	伊万里津の歴史を物語る古伊万里の飾り大壺
幸を呼ぶ3つの縁起橋	伊万里川に架かる「相生橋」「延命橋」「幸橋」は、「幸を呼ぶ3つの縁起橋」と呼ばれています。

資料：伊万里市観光協会 HP、旅伊万里（伊万里市観光パンフレット）

表 本市内の観光資源（その2）

伊万里・有田焼伝 統産業会館	「伊万里焼」「有田焼」が国の伝統的工芸品に指定されたことを契機に、昭和55年にオープンしました。伊万里・有田地区の窯元の作品を展示した総合展示室があり、研修室では、団体での絵付け体験もできます。
陶器商家資料館 「佐賀県遺産」認定 海のシルクロード館	白壁土蔵づくりの建物を修理復元した資料館です。江戸時代に活躍した陶器商人の暮らしを感じることができます。古伊万里の歴史や文化を体験できる施設として平成14年5月にオープンしました。2階には、市民所蔵の古伊万里を展示した古伊万里ギャラリー、1階には「ろくろ」「絵付け」の体験工房と肥前一带の焼物販売コーナーがあり、お土産の購入に最適です。
伊万里・鍋島 ギャラリー	市所蔵の鍋島焼や古伊万里を展示する美術館で、全国でも珍しい焼き物専門のステーションミュージアムです。
伊万里市 歴史民俗資料館	伊万里市の歴史や文化に関する資料を展示しています。原始・古代の石器や土器、中近世の陶磁器、カブトガニの標本などを展示しています。
松浦一酒造 (河童のミイラ)	松浦地方で一番になりたいと銘柄へ願いを込めた「松浦一酒造」の創業は正徳6年(1716年)。建物の改築中に見つかった河童のミイラが評判になり、多くの観光客が訪れています。

資料:伊万里市観光協会 HP、旅伊万里(伊万里市観光パンフレット)



- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 10: 大川内鍋島窯跡                | 32: 肥前磁器窯跡       |
| 11: 大川内山                   | a: (百間窯跡)        |
| 12: 旧犬塚家住宅 伊万里津            | b: (不動山窯跡)       |
| a: 旧犬塚家住宅                  | 33: 無縁塔祭         |
| b: 伊万里津                    | 34: 窯業道具の供養(筆供養) |
| 13: 旧戸渡嶋神社灯籠・手水鉢(現伊万里神社)   | 35: やきもの市        |
| 14: 嬉野の磁器窯跡群               | a: (春の窯元市)       |
| a: (吉田)                    | (鍋島藩窯秋祭り)        |
| b: (志田)                    | b: (肥前吉田焼陶器まつり)  |
| c: (不動山)                   | (吉田焼辰祭り窯元市)      |
| 15: 志田焼の里博物館(旧志田陶磁器株式会社工場) | c: (唐津やきもんまつり)   |
| 27: 肥前陶器窯跡(御茶盃窯跡)          | (唐津焼秋の窯元ツーリズム)   |
| 28: 茅ノ谷1号窯跡                | d: (武雄の紅葉と窯跡巡り)  |
| 31: 中野窯跡                   |                  |

図 日本遺産「日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」構成文化財の位置

資料:文化庁日本遺産ホームページ

### 3. 土地利用動向

#### (1) DID(人口集中地区)変遷図

- DID 区域面積は、S35 から H22 で約 4 倍に拡大している一方、人口密度は、約 145 人/ha から約 44 人/ha へと低下している。
- 用途地域縁辺部においてまとまった宅地開発が実施されている。

本市の人口集中地区は、平成 22 年で人口 12,897 人、面積 291ha、人口密度 44.3 人/ha となっています。昭和 35 年と比較すると、面積は 70ha から約 4 倍に拡大している一方、人口密度は 144.6 人/ha から約 3 割に減少しています。拡大箇所をみると、大坪町や立花町などの用途地域縁辺部においてまとまった宅地開発が実施されています。

表 本市の人口集中地区(DID)における人口、面積、人口密度の推移

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
人口(人)	10,120	8,612	9,428	8,665	11,677	12,326	11,940	11,922	11,705	11,639	12,897
面積(ha)	70	70	130	150	230	230	250	260	263	267	291
人口密度(人/ha)	144.6	123.0	72.5	57.8	50.8	53.6	47.8	45.9	44.5	43.6	44.3

資料:国勢調査

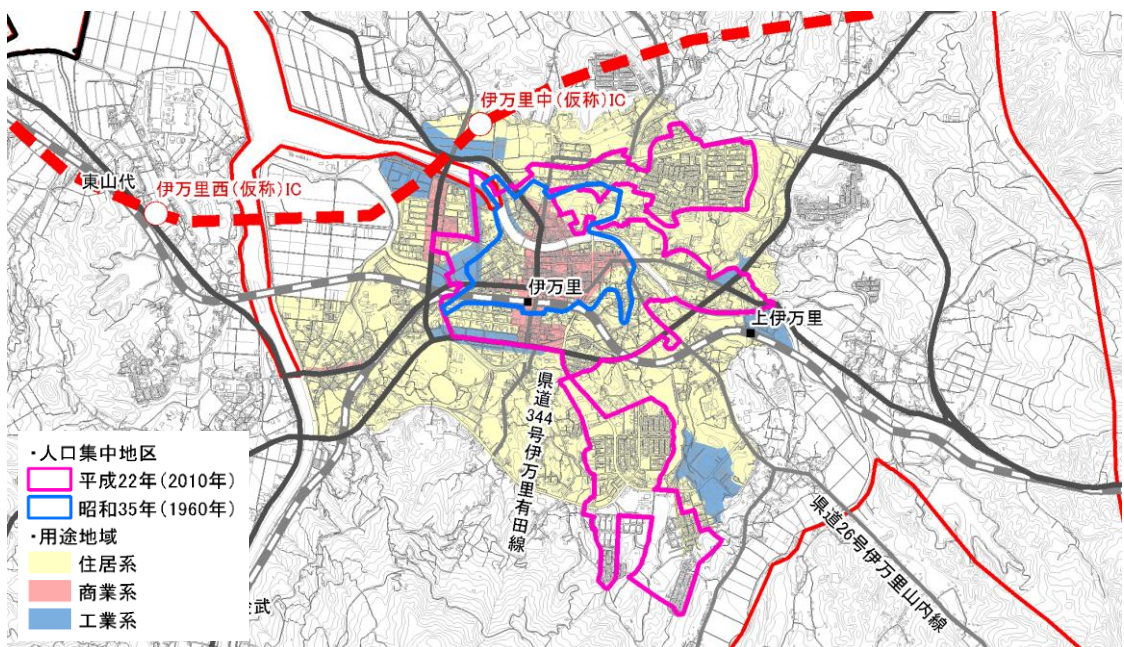


図 人口集中地区(DID)の推移(昭和35年、平成22年比較)

資料:国勢調査

(2) 空き店舗数の状況

- 平成 27 年現在、3 割強の空き店舗率
- 県内でも突出した空き店舗率

本市の空き店舗率は、平成 27 年で 31.7%となっており、県内でも突出して高くなっています。

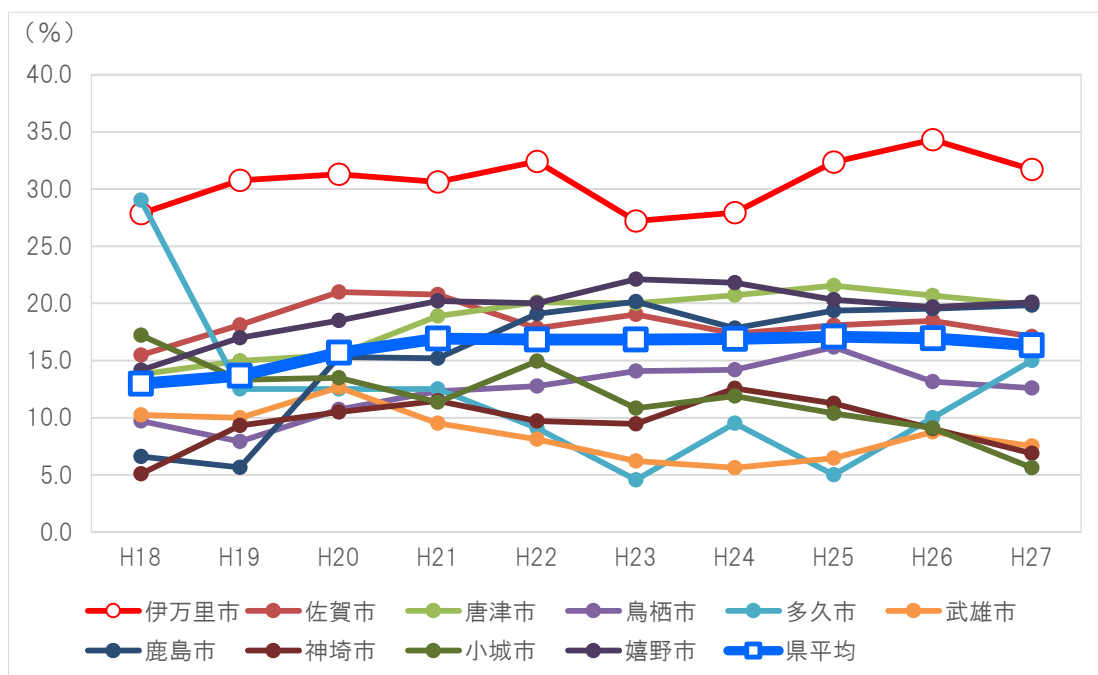


図 空き店舗率の推移

資料:市提供資料

表 県内の空き店舗率の推移

	(単位:%)										
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
伊万里市	27.9	30.8	31.3	30.6	32.4	27.2	27.9	32.4	34.3	31.7	
佐賀市	15.5	18.1	21.0	20.8	17.8	19.0	17.4	18.1	18.5	17.1	
唐津市	13.8	15.0	15.5	18.9	20.1	20.0	20.7	21.6	20.7	19.9	
鳥栖市	9.7	7.9	10.7	12.3	12.8	14.1	14.2	16.2	13.1	12.6	
多久市	29.0	12.5	12.5	12.5	9.1	4.6	9.5	5.0	10.0	15.0	
武雄市	10.2	10.0	12.6	9.5	8.1	6.2	5.6	6.5	8.8	7.5	
鹿島市	6.6	5.7	15.3	15.2	19.1	20.2	17.8	19.4	19.5	19.8	
神埼市	5.1	9.3	10.5	11.5	9.7	9.5	12.6	11.2	9.0	6.9	
小城市	17.2	13.3	13.5	11.4	14.9	10.8	11.9	10.4	9.1	5.6	
嬉野市	14.2	17.0	18.5	20.2	20.0	22.1	21.8	20.3	19.7	20.1	
県平均	13.0	13.7	15.7	16.9	16.8	16.8	16.9	17.1	16.9	16.3	

資料:市提供資料

## 4. 都市基盤整備状況

### (1) 道路網状況

- 国道 202 号、204 号、498 号が主要幹線道路として整備され、市道が網状に補完している。
- 西九州自動車道や国道 204 号バイパス、大坪・木須線の早期整備が求められている。

本市の道路網は、幹線道路として市域を南北に縦貫する一般国道 202 号や国道 204 号、国道 498 号をはじめ、主要地方道や一般県道などが整備されるとともに、これらを市道が網状に補完しています。

伊万里港の国際物流拠点としての地位向上や、周辺への企業集積に伴う交通量の増大や定時性、高速性の確保などの要請に対応し、福岡都市圏はもとより九州一円との広域的な道路網を整備するとともに、災害時などの避難路を確保するため、高規格幹線道路である西九州自動車道をはじめ、国道 204 号バイパス、大坪・木須線など幹線道路の早期整備が求められています。

市道については、新たな道路整備や国、県道の管理移管などにより管理する道路が増加しており、平成 29 年 3 月末現在の市道延長は約 947km となっています。

(2) 都市計画道路整備状況

● 都市計画道路の整備率は約 62%（西九州自動車道を除くと約 79%）

本市には、都市計画道路が 22 路線指定されており、うち 11 路線が整備済み（整備率約 62%）となっています。



図 都市計画道路の整備状況

資料：伊万里市都市政策課

(3) 公共交通状況

- 75歳以上人口のうち、約2割弱の方が交通空白地域に居住している。

市内の公共交通網は、松浦鉄道株式会社（MR）が運行する鉄道路線（長崎県佐世保市～佐賀県伊万里市～佐賀県西松浦郡有田町）及び九州旅客鉄道株式会社（JR九州）が運行する鉄道路線（唐津市～伊万里市）、西肥自動車株式会社、昭和自動車株式会社が運行する幹線のバス路線を軸として、幹線から離れた地域の交通を補完するコミュニティバスなどの枝線によって構築されています。

また、市の交通政策として、バス交通支援事業（路線バス等運行への補助）、コミュニティバス運行事業、鉄道交通支援事業（松浦鉄道の施設整備への補助等）、小学校遠距離児童通学支援事業（スクールバスの運行、通学定期券補助）、中学校遠距離児童通学支援事業（スクールバスの運行、通学定期券補助等）、障害者移動支援事業（福祉タクシーチケットの交付）に取り組み、市民の移動手段の確保に努めています。

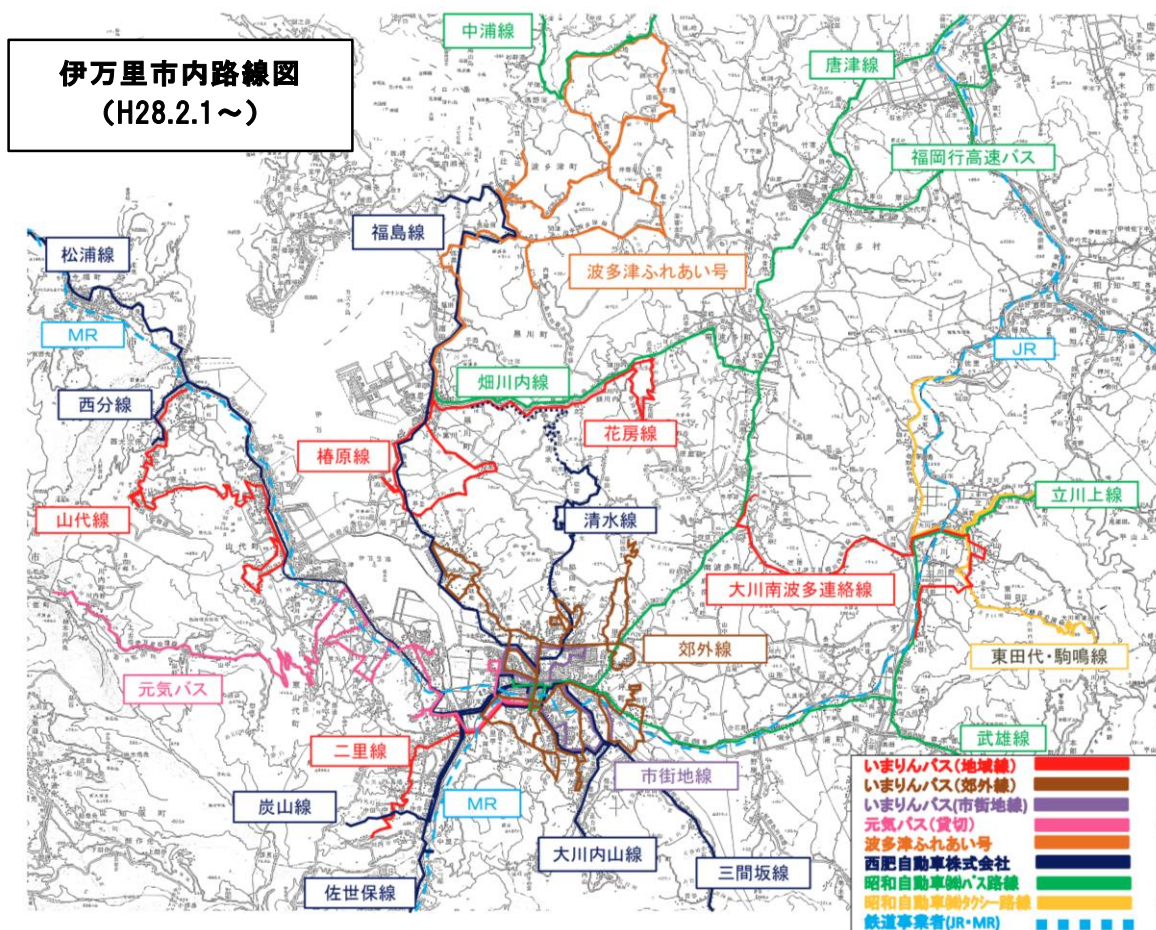


図 市内の公共交通網

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

① 公共交通利用状況（路線バス、JR、MR）

路線バス 16 路線のうち 12 路線において、年々利用者が減少しています。  
 松浦鉄道の乗降者数は年々減少しており、JR九州筑肥線ではここ3年ほ  
 ぼ横ばいとなっています。

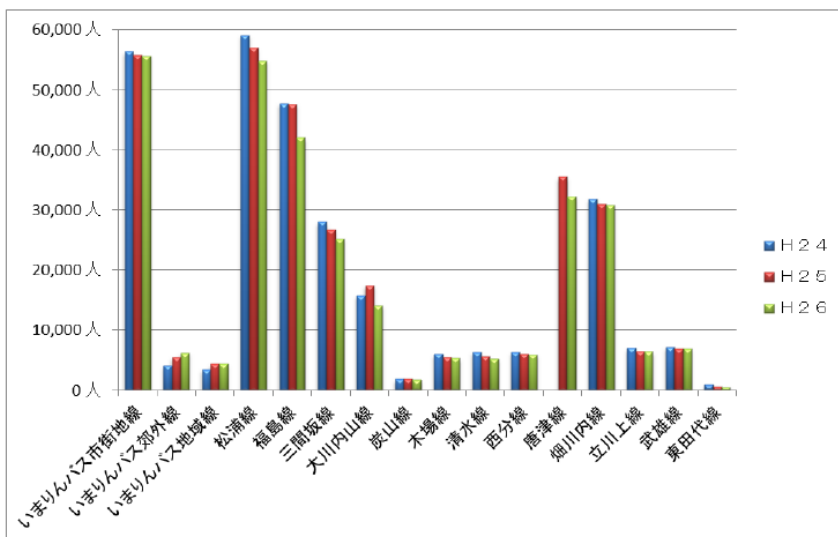


図 路線バス利用者数の推移

資料:伊万里市地域公共交通網形成計画

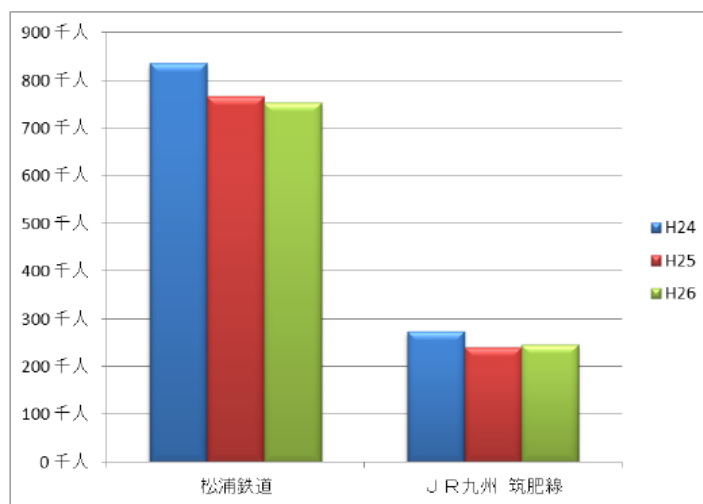


図 市内における鉄道乗降客数の推移

資料:伊万里市地域公共交通網形成計画



② 公共空白地域の現状

人口が集中している地域の大部分は、交通網が整備されていますが、集落が点在している山間部等は、交通空白地域が各地に存在している状況です。

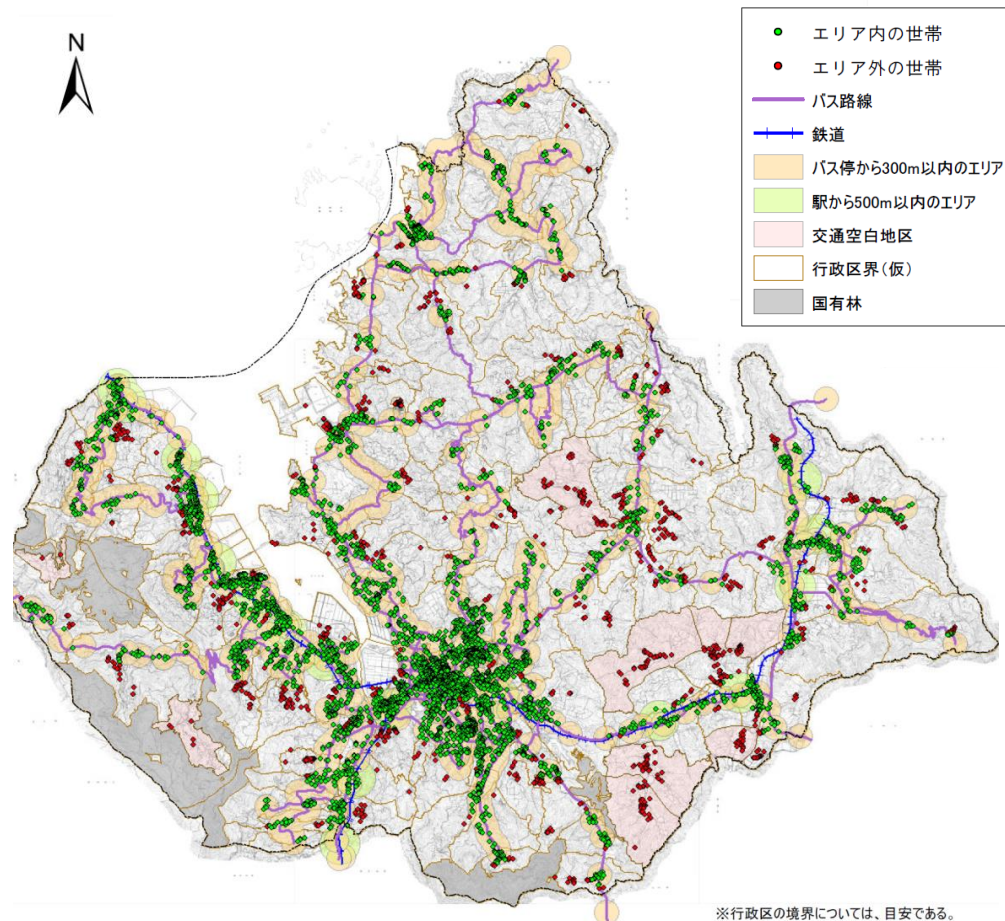


図 交通空白地域及び高齢者（75歳以上）の人口分布

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

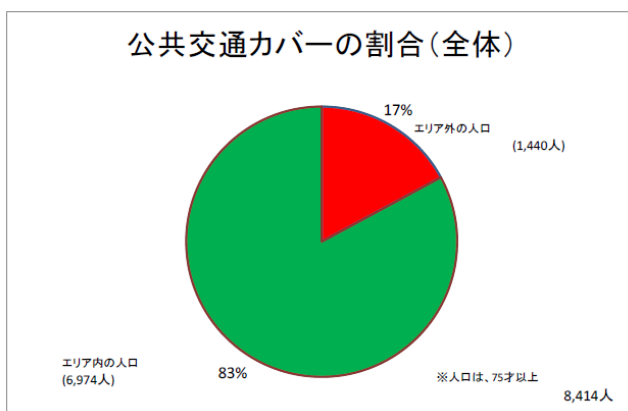


図 公共交通カバーの割合（75歳以上の高齢者のみ）

資料：伊万里市地域公共交通網形成計画

## 3-2 上位関連計画における位置づけ

上位計画における本市のまちづくりの方向性を整理します。

## 1. 第5次伊万里市総合計画後期基本計画

策定年月	平成26年6月
基本理念	市民との協働による安心と豊かさの創造
将来都市像	活力あふれ ひとが輝く 安らぎのまち伊万里
具体的な方針の抜粋	<p>■活気あふれる産業づくり</p> <p>【施策15 農業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 消費者ニーズに対応した安全で高品質な農産物の提供や、新たな加工品開発による付加価値の向上と農業の6次産業化に取り組むとともに、積極的な情報発信による販路拡大に努め、農業経営の安定化を図ります。</li> <li>● 第2次伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画に基づき、食を基調とした活力あるまちづくりを推進します。</li> </ul> <p>【施策18 工業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 積極的な企業誘致を推進するほか、既存企業の生産性の向上を図るため、道路網や港湾施設など産業基盤の充実に取り組むとともに、新たな設備投資などの事業展開に対する支援に努めます。</li> <li>● 伊万里焼については、伝統技術の継承を図るとともに、関係機関等と連携し、新商品開発や販路拡大の支援に努めます。</li> </ul> <p>【施策19 商業の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中心市街地の活性化の拠点である伊万里まちなか一番館の運営や商店街におけるイベント等を支援し、活気ある商店街の形成を図ります。また、日常的な買い物客だけでなく観光客に対しても伊万里ならではの魅力をアピールし、魅力ある商店街づくりを促進します。</li> </ul> <p>【施策20 観光の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鍋島藩窯の歴史と伝統が息づく大川内山をはじめとする陶磁文化や、伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランドを観光資源として最大限に活用し、市内はもとより、福岡都市圏など市外でのイベント等を通じた魅力の発信に努め、交流人口の増加を図ります。</li> <li>● 西九州自動車道の市内区間の開通を見据え、観光地としてのさらなる魅力向上を図るため、観光客の受け入れ体制の充実に努めるとともに、周辺観光地と連携した広域観光を推進するほか、様々なメディアを活用した観光情報の積極的な発信により、主に福岡都市圏からの観光客の誘致に向けた観光施策を展開します。</li> </ul> <p>【施策21 貿易の振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊万里港は、静穏な海域に恵まれるとともに地震の危険性が低く、また、経済発展が著しい東アジアに至近な距離にあることから、地理的優位性等を最大限に生かし、日本海側拠点港として必要な港湾機能の拡充を進めていくとともに、伊万里港の利用を国内外の企業に積極的に働きかけるなど集荷活動を推進し、貿易の拡大に努めます。</li> </ul>

<p>具体的な方針の抜粋</p>	<p>■安全で快適な地域づくり</p> <p>【施策22 道路・交通体系の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業や観光、交流の活性化はもとより、災害時の安全安心を確保するため、<u>西九州自動車道をはじめ、国道や県道など幹線道路の体系的な整備を促進</u>します。</li> <li>● 地域の生活道路や通学路である市道の計画的な整備や適切な維持管理に取り組むなど、<u>日常生活における安全で円滑な交通の確保</u>に努めます。</li> </ul> <p>【施策23 港湾機能の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 重点港湾と日本海側拠点港に選定されたことにより、今後も港湾整備の進展が期待されることから、伊万里港のさらなる機能強化を図るため、<u>国、県などの関係機関との連携により、港湾施設の整備を促進</u>するとともに、<u>浦ノ崎地区廃棄物処理用地</u>については、<u>産業用地としての活用が可能となるよう、早期の埋め立てを促進</u>します。</li> <li>● 伊万里港における移動の円滑性を確保する臨港道路はもとより、<u>長崎自動車道や西九州自動車へのアクセス向上のための道路整備</u>を図ります。</li> </ul> <p>【施策25 都市景観の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市街地の観光地としての魅力の向上を図るため、<u>伊万里津の歴史と文化を受け継ぐ古伊万里文化の香るまちづくりを推進</u>します。</li> <li>● 計画的なまちづくりを進めるため、用途地域の見直しを行うなど、<u>有効な土地利用と秩序ある開発を促進</u>します。</li> </ul>
------------------	---



まちづくりの目標「活気あふれる産業づくり」において、「付加価値の向上」、「新商品開発」、「魅力ある商店街づくり」、「伊万里ブランドを観光資源として最大限に活用」などの取り組みを、積極的に「情報発信」しながら「販路拡大」していくことが示されています。

その取り組みを支える方法として、まちづくりの目標「安全で快適な地域づくり」において、「西九州自動車道をはじめ、国道や県道など幹線道路の体系的な整備」や「港湾施設の整備促進」などの社会基盤整備を進めていくことが示されています。

## 2. 伊万里市まち・ひと・しごと創生総合戦略

策定年月	平成 27 年 10 月
基本目標	<p><b>基本目標1</b>産業振興により「<u>活気あふれるまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市内企業の育成とともに、本市の地域特性や潜在能力を生かした起業、創業の支援、企業誘致等に取り組むことにより、<u>雇用の場の拡大</u>を図ります。</li> <li>● 若い世代の市内就職を促進し、<u>市内定住</u>を図ります。</li> <li>● 市内企業等の生産性の向上に向け、関係機関が連携した支援を行います。</li> <li>● 若者や女性が働きやすい職場環境の創出をめざし、テレワークなどICTを活用した新しい働き方についても、民間事業者等と連携し普及を推進します。</li> <li>● 農林水産業については、後継者の確保や育成をはじめ、<u>6次産業化などによる所得の向上のための施策を推進</u>します。</li> </ul> <p><b>基本目標2</b>地域資源を生かし「<u>行きたいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 古伊万里の積出港としてのかつての伊万里津の賑わいを現代に蘇らせるとともに、伊万里焼や伊万里牛などの<u>伊万里ブランドを生かした観光戦略の展開</u>により、インバウンド観光を含め本市の<u>交流人口の拡大</u>を図ります。</li> <li>● 大都市圏からの若い世代や中高年者世代の<u>移住を視野に入れた受け入れ体制の充実</u>を図るとともに、転出者を抑制する施策の展開により、本市から大都市圏や近隣市町に集中している人口流出の減少を目指します。</li> <li>● 市内企業への就職や本市への関心を持つ若者を増加させるため、大学等と連携し、本市の<u>情報を提供する機会の創出</u>を図ります。</li> </ul> <p><b>基本目標3</b>市民みんなで「<u>子育てしやすいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 若い世代が安心して働くことができる職場環境をつくり出すことや多様な保育ニーズに対応する保育サービスの提供など、<u>子育て環境のさらなる充実</u>を図ることにより、子どもの出生数の増加を目指します。</li> <li>● 独身者の結婚活動の支援や母子保健の充実、地域における子育て支援の充実などの切れ目のない支援に取り組みます。</li> </ul> <p><b>基本目標4</b>時代に合った都市づくりで「<u>安心して住みたいまち</u>」をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各町(地区)のまちづくり協議会を核とした取組を支援し、<u>地域コミュニティの活性化</u>を図ります。</li> <li>● ふるさと伊万里にとどまり、また、転出後もふるさと伊万里に帰るきっかけとなるよう、<u>児童や生徒が郷土に愛着を持てる学習機会の提供</u>に努めます。</li> <li>● 原子力災害や自然災害などに対応できる避難体制を構築し、市民の安全・安心の確保に努めます。</li> <li>● 市民が健康に暮らすことができるよう、地域医療の充実を図ります。</li> <li>● <u>福岡都市圏や近郊都市との連携等により、産業や経済活動の活性化</u>を図ります。</li> </ul>

本市ならではの地方創生の実現のため、「活気あふれるまち」「行きたいまち」「子育てしやすいまち」「安心して住みたいまち」をつくるという4つの基本目標を柱として、地域産業の競争力強化、観光分野での交流人口の拡大、移住などの定住対策、地域連携による経済・生活圏の形成等の具体的施策を展開することが示されています。